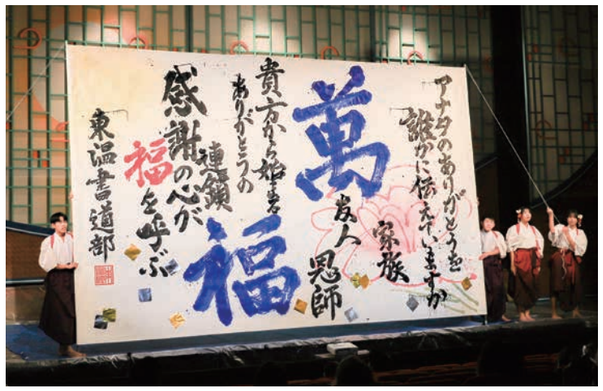
各部門の優勝者

部　門	男子優勝者	女子優勝者
小学生（1～3年生）	伊藤 魁剣	櫻木 麻陽
小学生（4～6年生）	菊池 夢月	松岡 心桜
中学生	宇都宮 誠吾	宮岡 優
一般	中川 光二	山崎 葉

力いっぱい駆け抜ける

市民健康マラソン大会開催

12月15日、市民健康マラソン大会がかすみの森公園で開催され、約100人が参加しました。「親子・健康マラソンの部」と「競技の部」の2種目で、親子で楽しく走ったり、目標を持って全力で走ったりなど力いっぱい駆け抜けていました。小学1～3年生の部で優勝した櫻木麻陽（まお）さんは、「優勝は嬉しかったけど、タイムが思いどおりにいかなかった。来年も1位を目指します」と力強く話しました。



表現の可能性は無限大！

東温フェスティバル

12月21日、東温高校による東温フェスティバルがGreat Sign坊っちゃん劇場で開催されました。各部活動による合唱、演奏、演劇、ダンスなどの発表や、スポーツ健康類型の皆さんによるダンスが披露されたほか、華道部、書道部、美術部の作品展示が行われました。生徒たちが日頃の練習の成果を十分に発揮し、観客は素敵なパフォーマンスに温かい拍手を送りました。

過去を抱きしめ、未来へ羽ばたく

二十歳を祝う会開催

1月12日、二十歳を祝う会が中央公民館で開催されました。代表者の渡部佳洋（よしひろ）さんと渡部梨乃（りの）さんが意見発表を行い、それぞれの将来の夢に向かって励んでいく決意を表明しました。

式典後は、二十歳を祝う会実行委員会が企画したイベントとして、出身中学校対抗のイントロクイズや椅子取りゲーム、腕相撲などが行われ、童心に帰り笑顔溢れる楽しい時間を過ごしました。

あの頃の自分と再会

タイムカプセルを開封

二十歳を迎えた西谷小学校の卒業生14人が、学校で保管していたタイムカプセルを開封。縄跳び、泥団子、キーホルダー、メダルなどそれぞれの思い出の品や二十歳の自分へ宛てた手紙が入れられており、当時を懐かしみながら一つひとつ取り出しました。保護者と一緒に手紙を読み返したり、恩師の先生や旧友と思い出や近況、夢を語り合い、未来への決意を新たにしました。

文字に触れて心の栄養を補給！

拝志小学校で読書祭り

全校児童参加の読書祭りが開催されました。図書委員が工夫を凝らした２種類の桃太郎の朗読やおはなしウーフさんによる絵本の読み聞かせ、狂言の紙芝居などが行われ、本の世界にどっぷりつかりました。6年生の図書委員からは「２週間頑張って準備し、桃太郎の発表を気持ちを込めて朗読できました。来年は、頑張って劇などをやって欲しいです」と下級生にバトンを託しました。

みんなが食事を囲める場へ

ほっこり奥松クリスマス会

絵本の読み聞かせやじゃんけん大会が開催され、子どもたちが楽しんでいました。併せて、初めてこども食堂（0歳～中学生まで）とおとな食堂（75歳以上）が開かれ、ほっこり奥松スイーツ部の人たちが、地元の食材を使ったハンバーガーとスープを提供しました。これからも、毎月一度の開催を予定しており、地域の子どもや高齢者が一緒に食事を囲み会話ができる場所になることが大いに期待されます。

違いを認め合い、思いやりの心を大切に

作文とスポーツで広がる人権の輪

令和６年度人権作文・人権メッセージコンテスト表彰式が中央公民館で開催され、重信中学校１年生の中元寿々羽（すずは）さんの作品「世界は自分だけじゃない」が最優秀賞、村上七望（なも）さんの作品「障がいは一人の個性」が優秀賞を受賞しました。

また、人権スポーツ教室が同時開催され、サッカー、バスケットボール、野球のプロ選手との交流を楽しんだほか、プロスポーツ団体による人権に関するディスカッションが行われるなど、スポーツと人権の関わりについて理解を深める機会となりました。

Interview

重信中学校１年生 **中元 寿々羽** さん

手話講座で、避難所では障がいのある人への配慮が十分でないことを知り、そのことに対する自分の気持ちを人権作文に込めました。手話や障がいのある人への理解が広まればいいと思います。

土を触りながら手作業で

玉ねぎの苗植えを体験

重信幼稚園の園児と川上小学校の児童が、玉ねぎの苗植えを行いました。重信更生園の職員、西村侑晟（ゆうせい）さんから植え方を教わり、土の感触を感じながら、一つひとつ手作業で植えていきました。コツは深く植えすぎないことと、土を被せすぎないこと。美味しい玉ねぎが育つようにと思いを込めて植えました。玉ねぎは6月に収穫され、給食に使われる予定です。

30年の伝統を紡ぐ
「巳」の絵馬を水天宮に奉納

平成7年に始まり今年で30年目を迎える「干支送り」の行事が、水天宮で行われました。

毎年、東温高校美術部の生徒たちが干支を描いた絵馬を奉納しています。美術部部長の丹千尋（ちひろ）さん（写真左から3番目）は、「部員全員で協力し、1か月かけて制作しました。白蛇は神の使いとされているため、縁起の良い雰囲気となるよう全体的に明るく表現しました」と笑顔で話していました。

さくらひめを市長に贈呈
商工会女性部が市長訪問

商工会女性部が加藤市長を訪問し、さくらひめの花束を贈呈しました。さくらひめは、市内農家が栽培し、商工会女性部が花束や花かごを手作りしており、生産から加工まで市内で一貫して行われています。加藤市長は、さくらひめを活用した地域活性化に対して感謝の意を示し、商工会女性部からも新たな地域活性化についての提案があり、和やかな雰囲気の中で交流が進みました。

新年を迎える準備
西谷小学校でしめ飾り作りと餅つき

参加した子どもたちは、地域の大人たちからしめ飾りの作り方を教わり、試行錯誤しながら頑張って完成させました。続いて餅つきが行われ、親子で協力したり、友達に応援してもらいながら一生懸命ついたりと、温かな時間が流れていました。

みんなでつきたてのお餅を、さとう醤油やきな粉、ぜんざいで食べ、新年を迎える良い準備ができました。

オ～レくんも一緒に！
ウェルケア重信で餅つき大会

ウェルケア重信で、婦人会と新村区の皆さんを招いて餅つき大会が開かれました。よもぎやみかん、紫芋などで味付けしたもち米が用意され、参加者は「よいしょ！」「もういっちょ！」の掛け声とともに手拍子を響かせました。

いのとんと愛媛FCマスコットのオ～レくんも参加し、一緒に餅つきをしたり写真を撮ったり、交流を楽しみながら心温まる時間を過ごしていました。

しめ縄龍づくりを思い出しながら
東谷小学校でしめ縄飾りづくり

東谷小学校の児童が、地域の老人会の皆さんに教えてもらいながら、お正月のしめ縄飾りを作りました。しめ縄龍を作ったときと同じように稲藁を綯（な）った後、裏白やゆずり葉、橙など、それぞれに込められた意味を教わりながら飾りつけていました。6年生の児童は「地域の方と協力しながら、小学校最後の年にふさわしいしめ縄飾りを作ることができました」と満足そうに話していました。

年末年始の風物詩
参拝者へ心温まるふるまい

新年を迎えた後、志津川の天満神社と和田霊神に訪れた参拝者へ、生姜湯とレモネードがふるまわれました。年末に地区の人たちが協力して準備したもので、厳しい寒さの中で訪れる参拝者たちを温かく迎え入れる心遣いが感じられました。参拝者からは「生姜湯で冷えた体を芯から温めることができました。今年も健康第一で過ごしたいです」と感謝の声が聞かれました。

一年の無病息災を願う
七草がゆを食べる集い

七草の日に、婦人会が七草がゆを作り、川内公民館で配布しました。毎年恒例のこの行事。配布時間前から、七草がゆを心待ちにしていたたくさんの人が行列を作りました。

婦人会の皆さんは、一人ひとりに「あけましておめでとうございます」「良い一年になりますように」と明るい笑顔で声をかけ、135食の七草がゆを手渡しました。